今月号の「道の駅インタビューコーナー」は、会津湯川の里事務局の山田誠一郎さん、会津坂下町商工会青年部の猪俣優樹部長からお話を聞きました。道の駅に期待すること、また自分たちがどのようにして道の駅に関われるかなどについてご意見をいただきました。

山田誠一郎さん

○会津湯川の里では、商品販売や加工品開発などに取り組まれていると聞いています。平成25年度はどのような活動を行い、また平成26年度はどんな活動に力を入れたいと考えていますか。

山田：平成25年度は東京都内を中心にイベント活動へ参加し、村の特産品「会津湯川米コシヒカリ」をはじめ、「無添加味噌」などの加工品を販売しPRしてきたほか、県内、会津管内でのイベントを通じて他市町村と交流し、横のつながりができました。平成26年度も同様にイベント活動に参加しPR、販促活動を進めるほか、新たな加工品開発にも力を入れ、湯川米と肩を並べるような商品に育てたいと考えています。現在開発中の「米粉麺」は居酒屋や旅館などの外食産業へ納品を目指し取り組んでいます。

○道の駅では、物産販売のほかにどんなことに取り組んでほしいですか。またどんな施設になってほしいですか。

山田：地元産品を販売することはもちろんですが、会津全域の商品を取り扱い、また観光紹介を行って、観光に来るお客様には「会津のおもてなし」を堪能できるような雰囲気作りと、地元のお客様へは気軽に買い物やお茶飲みができる店づくりを両立してほしいと思います。また定期的にイベントを開催し、お客様を呼び込んでほしいと思います。

○湯川村の「おすすめのもの」を教えてください。

山田：湯川村は県内で一番小さな村で、山がない村なので壮大に広がる田園から遠くの山々を見渡せます。また全国から多くの参拝客が訪れる国宝薬師如来像を収めた「勝常寺」があります。すぐ隣には私たち会津湯川の里が「湯川村たから館」にありますので、お気軽にお立ち寄りください。湯川村の特産品といえばお米になりますが、地元の農家が作るお菓子や漬物も、イベント販売での人気商品です。

○会津湯川の里として、道の駅とどのような関わり方ができそうですか。

山田：会津湯川の里では、道の駅で湯川村特産品のPR・販売を行いたいと考えています。道の駅で販売することで、これまで単発のイベントでは分析できなかった消費者のニーズなど会員農家とともに勉強できる絶好の機会だと考えていて、この機会を利用し今後の商品開発や販売につなげ、会員皆さんとともに成長したいと思います。また会員向けに農産物等の集荷なども取り組みたいと考えています。

猪俣優樹さん

○会津坂下町商工会青年部では、平成25年度は特にどのような活動に取り組まれましたか。

猪俣：私たち商工会青年部は、現在40名で活動しています。平成25年度は、新入部員の勧誘に力を入れ、新たに10名が加入し、そのうち3名が女性です。初めて青年部に女性が加わったことで、昨年の夏まつりには女性の目線から生まれたイベントが加わるなど、女性の力が発揮され組織が活性化しました。

○青年部では馬肉を活用した商品開発にも力を入れているそうですが、どんな取り組みをされているのですか。

猪俣：現在役場商工観光班と一緒に「馬食文化継承事業」に取り組んでおり、馬肉に関するアンケート調査や「馬刺しのたれ」のネーミング募集を行いました。私たち青年部も馬肉を使った「そぼろ」や「桜肉まん」を企画・開発し、イベントへの出店・出品を通して会津坂下町をPRしています。

○道の駅では、物産販売のほかにどんなことに取り組んでほしいですか。また青年部として、道の駅とどのような関わり方ができそうですか。

猪俣：私たち青年部が発案した「水合戦」を道の駅イベントの1つに加えて頂き、川の駅「消防訓練広場」でやってみたいと考えています。今は夏まつり会場で実施していますが、スペースがより広い道の駅・川の駅で開催できれば駐車場やトイレなどの問題も解決でき、さらに盛り上がるのではないかと考えています。

○会津坂下町の特徴と言えばどんなところでしょうか。

猪俣：馬肉も特産品の1つですが、会津坂下町には日本酒、味噌や醤油のほかに、ヨーグルトをつくる乳業メーカーがあることも特徴の1つで、醸造・発酵食品が多い町だと思います。また青年部の事業ではありませんが、特徴である水田を活かし首都圏の方に農作業体験を通して収穫したお米で、お酒をつくるツーリズム事業を計画しているところです。

○道の駅でもそのツーリズム事業へ協力させてください。最後に整備される「道の駅」は、どんな施設になって欲しいですか。

猪俣：会津でも多くの自治体で「道の駅」が整備されていて、何か特徴を出さないと埋没してしまうのではないかと心配しています。他の道の駅と違い、川の駅や水防センターなど、自由に遊べるスペースや会議ができる場所も併せ持つので、その強みを生かし、いろいろなイベントができる使い勝手の良い施設になってほしいです。

古代への探訪

「会津坂下町郷土学習副読本 - 坂下学のすすめ」から

クニから国へ

奈良時代(七一〇～七九四)の古事記(七一二年成立)や日本書記(七二〇年成立)には、大和政権ができる古墳時代に北陸道(日本海側)と東海道(太平洋側)を父と子の両将軍が東征しながら、「相津」(会津)で合流したとの説話が載っています。その頃の会津地方には、畿内大和形の前方後円墳が多数築造されていました。この事実からも、会津地方が、大和政権に重視されていたことが分かります。これは、中央の古墳文化がいち早く届いていたことをも示しています。

この奈良時代には、日本全土を六十五カ国余に分けて五畿七道という行政区画に組み入れて、都から各道に官道を整備しています。先の北陸道や東海道も含まれており、東北地方は五畿七道の一つである東山道に位置していきます。そして、国毎に国府や国分寺が置かれます。国府は国の役所に当たります。一方、国分寺は仏教による鎮護国家を実現するための官寺で、中央集権・民衆支配強化のための精神的支柱となっていきます。そして、寺院や仏像を造る技術者が地方に入って来る時代を迎えます。

律令制度下の会津郡

会津地方は陸奥国(福島・宮城・岩手・青森県)に組み入れられ会津郡となります。律令制度下において、年貢の収納や運搬に必要な道路や役所が整備されてゆくにつれ、人々の往来も盛んになっていきます。会津郡の役所である会津郡衙は、郡山遺跡(会津若松市河東町)と推定されています。瓦が出土したことを根拠としています。当時の国や郡の役所などの建物は瓦葺きが普通であったからです。この会津郡衙と関連がある遺跡が、当町の**大江古屋敷遺跡(大江地区)**です。九世紀初頭の遺跡で会津郡衙の出先機関と考えられています。この大江古屋敷遺跡と郡山遺跡との間に官道が通っていた可能性があります。これ以降の時代に越後街道ができているからです。この大江古屋敷遺跡からは、福島県唯一の中国越州青磁碗などが出土しています。

徳一大師

平安時代(七九四～一一九二)に、学問僧である**徳一**が奈良の都から会津に来て、磐梯山麓に慧日寺を開きます。この慧日寺は、会津四郡(会津、耶麻、河沼、大沼)を平安末期まで政治的・宗教的に支配していきます。さらに、病苦を治すとされる薬師如来を安置する薬師寺を次々と建て、北関東から東北南部一帯まで仏教を広めます。

会津四郡において徳一は、五薬師を配置しています。中央薬師を勝常寺に置き、会津四郡の東西南北に配置して五薬師とし、西を守るのが当町の**上宇内薬師(大上地区)**です。当初は西方薬師と呼ばれ、徳一が再建した高寺三十六坊の一つ調合坊の本尊でした。

上宇内薬師堂の国指定重要文化財「**木造薬師如来坐像**」は十世紀初頭に造られています。広く民衆を救うとされ、今も会津の人々の信仰のよりどころとされています。

また、徳一は**恵隆寺(塔寺地区)**の再興にも取り組んだと言われています。恵隆寺を「西の本寺」として高寺三十六坊の中心とし、「東の本寺」の慧日寺とともに、会津全土を教化する構想があったのでしょう。

これらのことから、徳一は会津地方における仏教文化の開祖とも言えます。ちなみに、徳一は仏教の思想面においても、天台宗や真言宗を開いた最澄や空海と仏教史に残る「三一権実論争」を交えています。

寺院と仏像

奈良時代から平安時代までの約五百年間において、会津四郡にどれだけの寺院が建てられたかを『新訂　会津歴史年表』(会津史学会編)で調べたところ、少なくとも四十八余の寺院がありました。寺院を建て、仏像を造ることは、毎年の管理と供養にかなりの費用を必要とします。その費用を地元の有力者は負担したと推測されます。それが、寺院をとおして仏教文化が栄えていく契機になったと思われます。一方、一般民衆は仏像を見ることによって、仏教とは何かということを感得していったのでしょう。

会津地方の仏教文化の特色は、古代から中世にかけて継続して発展していくことであると言われています。中世になっても優れた仏像が次々と造られていきます。他の地方では、優れた仏像の多くは平安末期どまりで、中世に入るととても少なくなっているとのことです。

このことから、徳一と、徳一に随行して来た建築の技術者や仏師が会津地方の仏教文化に貢献した力は大きいものがあると言えます。

上宇内薬師堂と木造薬師如来坐像（大上地区）

恵隆寺（塔寺地区）

問い合わせ先　町史編さん室
☎83－2234(代)

ばんげの味が育てる その50 おいしい楽しい健やかライフ

～食生活改善推進員活動「健康と産業と文化の祭典」より～

毎年 11 月 3 日に実施される「健康と産業と文化の祭典」に於いて、今年度は**「麦を見直しましょう！」**というテーマで地域の皆さんと接しました。

今、食卓から体に良いものが時代の流れと共に消えつつあります。改めて古きを知ってもらい、具だくさんの味噌汁での減塩も呼びかけながら、麦 3 白米 7 の割合でのおにぎりの試食を 400 人の来場者に提供しました。麦を使ってのオムレツとサラダも展示し、麦の効能なども知ってもらいました。改めて麦の良さを感じることができ、来場者の皆さんに好評を頂きました。

～2 階試食会場～

おいしく作りましょう♪

麦には食物繊維が多く含まれていて、便秘の解消にもなるわね☆

☆ゆで麦入りモーニングサラダ☆

麦ご飯おにぎりと具たくさん味噌汁

食生活活動推進員メロンの会では、今後も食事の大切さをお伝えしていきます。また、会津坂下町ならではの郷土料理など、食文化を伝承する活動も実施していきたいと思います。

☆★ 2 月 19 日（食育の日 家庭料理の日）おすすめレシピ★☆

～よくかんで食べられる卵料理！～

ゆで麦入りフワ・プチ・スクランブルエッグ

材料（2 人分）

ゆでた大麦…… 100 g
卵…………………… 3 個
塩………… 小さじ1/3
こしょう…………適量
ミニトマト……… 4 個
粗びきこしょう…適量

作り方

①ボウルに卵を溶きほぐし、大麦を加えてほぐしながら混ぜ、塩、こしょうをする。
②フライパンに油を熱し（分量外）①を流し入れ、大きくかき混ぜて半熟状に火を通し、器に盛る。
③ミニトマトを添え、好みで粗びきこしょうをふりかける。
（1 人分約 178kcal 塩分 1.3g 食物繊維 2.0g）

【問い合わせ先　健康管理センター　TEL 83－1000】

中央公民館 図書室だより Vol.44

中央公民館図書室　TEL 83-3010 （定休日:毎月第２火曜日）

２月の別名「如月」（きさらぎ）は、さらに衣を着る「着更着」が転じたという説があるように、この時期は一年で一番寒い季節です。しかし立春を過ぎ、暦の上では春を迎えました。まだまだ寒い日が続きますが、春は確実に近づいています。

☆ おすすめの新着本 ☆

人物	わたしはマララ：教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女
	マララ・ユスフザイ、クリスティーナ・ラム 著 学研パブリッシング
史上最年少で、ノーベル平和賞の候補になった 16 歳の女の子、マララの手記。テロリズムによって生活が一変した家族の物語でもあり、女の子が教育を受ける権利を求める戦いの記録でもある。	

小説	インフェルノ；上・下
	ダン･ブラウン 著 越前敏弥 訳 角川書店
原題は『Inferno』。今回はフィレンツェ、ヴェネツィアを舞台にダンテの長編叙事詩『神曲』の地獄篇に秘められた謎の解読に挑む、ラングドン教授シリーズの第４弾。	

☆ 新着本紹介 ☆

対象	本のタイトル	著者名	出版社
子ども	おかあさんのそばがすき：犬が教えてくれた大切なこと	今西乃子 著、浜田一男 写真	小学館
子ども	おもしろ野球クイズ 100：野球クイズ王になる！		学研教育出版
子ども	かいけつゾロリのまほうのランプ～ッ	原ゆたか さく・え	ポプラ社
子ども	かあちゃん取扱説明書	いとうみく 作	童心社
一般	オレがマリオ	俵万智 著	文藝春秋
一般	幸福な生活 （祥伝社文庫）	百田尚樹 著	祥伝社
一般	誰も書かなかったダンテ『神曲』の謎（中経の文庫）	ダンテの謎研究会 編	角川書店
一般	ふくしまの名木：年輪刻んで	福島民報社 編	福島民報社

☆**このほかにも新着本があります。ぜひ、図書室へお越しください。**

●「ブックスタート事業」ボランティア募集のお知らせ

ブックスタート事業を手伝って頂けるボランティアの方を随時募集しています。
主な活動内容は、10 か月児健診の時に赤ちゃんとその保護者を対象に、簡単な説明をしながら絵本を手渡すお手伝いをしていただきます。
興味のある方は中央公民館までご連絡ください。（電話 83-3010　担当：佐野）